

“根っこ”から

東北・北海道ブロック代表

宮城県 JA加美よつば青年部 色麻支部 橋本 拓未

「橋本！ 野菜ってのは、根っこが大事なんだぞ！ まあ、人もそうだけどな！」

高校時代、農場の先生との何気ない会話から生まれた言葉が、今になってどんな意味を持っていたのか分かるようになってきた。

私は、就農6年目、船形山のお膝元、カップのふるさと色麻町で繁殖和牛40頭を飼養している。ここに来て、ようやく経営も軌道に乗り始めた。そんな中で、もっと農業と言うものを知って、“楽しみたい” “いずれは仲のいい同級生と、〇〇ファームなんて畜産・野菜・穀物の融合したマルチな組織を作っていければなあ〜”なんて夢も描き出し始めた。そんな果てしない夢への足掛かりとして、

「大丈夫 大丈夫 損はしないし、誰でも作れるから」

と、同級生の農協職員の甘い誘いに乗って、加工トマトに手を出してみた。

牛の事ならひと通り、熟知している自負があったが、野菜となると・・・畑を耕したこともないし、マルチ？ 何にそれ？ 農薬は？ 出荷ってどうやるの？ 何一つ満足にわかる事がなかった。

右も左も分からないまま、いよいよ初めてのトマト！ どんどん運ばれてきた苗を、なんとか無事に定植。そろそろ活着かな？と言うところで大雨が降った。水はけなど考えていない畑はほぼ冠水。特に水はけの悪いところは“根っこ”にかなりのダメージを負った。そのダメージは、収穫まで尾を引き、その畝は病気に負けたり、なかなか実がならないまま終わってしまった。そんな株を眺めていると、あの時の何気ない会話が鮮明に蘇ってきた。

不安だらけの中始まったトマト栽培であったが、真っ赤に完熟した実を収穫した時の喜びは、何物にも変えられないものであった。初めての野菜栽培で、

「これは難しいけど、やっぱりなんか作るって面白い！」

とクセになってしまい、来年は、さらにソラマメや、ピーマン、根菜類にも挑戦してみたいと計画している最中である。

今になって振り返ると、あの時の会話を思い出させるきっかけが、3年前にあった。

単組の委員長から・・・

「若いし、ヤル気あっから勉強さ行ってみろ！それじゃ、頼むな！」

の一言で、県の役員に選ばれた。正直、ポンと押し付けられた感じは拭えなかったが、少し前から私の中で、

「青年部活動がマンネリ化している！　なんか、新しい事はないかな？　そもそも一番上が頭固いからこう思うんだべ！　それだったら、県に行って暴れてくっかな！」

と言う思いもあった。今思えば、“変えてやる！”の一心で、あの時の私は、やたら話に突っ込んでくる嫌な奴だったかもしれない。1回目・2回目の会議が終わったぐらいから、あれっ？　なんか違う・・・と言う疑問が生まれてきた。

県イコール、宮城県青年部のトップと考えていたが、当時の県の委員長に

「県はトップじゃないよ～　各単組・支部がやっぱりメインだよ！　だから、下からバンバン意見あげてね」

私は、大きな勘違いをしていた。県が一番偉いからそこに行けば変わるし、変えられると思っていたが、青年部を変えられるのは、単組、いや支部、いや盟友である私たち一人一人だと言うことに気付かされた。

「橋本！　野菜ってのは、根っこが大事なんだぞ！　まあ、人もそうだけどな！」

先生の言葉が頭をよぎった。

私は、この衝撃的な出来事を、地元に戻り、すぐに

「もう一度、支部の活動から見直してみませんか？」

単組の会議の中で切り出した。正直、こんな若輩者が、こんな事言わなくても、今までやってきたから、いいんじゃないかな？　と言う他力本願な自分もいた。しかしながら、県で感じた他の青年部のパワーに、

「俺も、負けたくない！　うちの青年部なら、もっと良いことが出来る！」

と言う衝動に駆られて、言葉が出ていた。

生意気な事を言ってしまったと不安になり、掌が一気に湿った。しかし、返って来た言葉は、意外なものであった。

「んで、まずは何からやっぺ！　とりあえずやれる所から見直すか？　拓未、あんだも考えてける！」

と聞き入れてくれる仲間がそこにはいた。少しずつではあるが、この青年部が新たに前に進み出した予感に気持ちが高鳴った。

それからは、支部単体企画の大規模な婚活イベントが持ち上がり、それが起爆剤となり、支部活動が盛り上がり始めた。他の地域の青年部との交流会、食育活動に力を入れるもの、それぞれの特色が活かされた活動が増えて行った。同時に支部同士の競争心が生まれ、野立て看板

コンクールでは、作品の完成度が上がり、近年では、県でも必ず賞を頂くようになった。

このように、青年部が盛り上がりはじめた中、今年、私は、単組の副委員長の役職を預かり、さらに “JA加美よつば青年部の名を広げたい！ 良くしたい！” という思いは強くなった。農協青年部らしく、農業に関するイベントをメインにしたいと思い、ドデかぼちゃコンクールの再開。今までは、他の地区の青年部との行事が手薄だった事も改善したいと、県内の青年部が企画運営する「農魂祭」への参加。それから、後継者、農家の嫁不足を打開すべく、単組の初となる本気の恋活イベントも、今年度の冬に開催する予定だ。しかしながら、当然私の力だけでここまで来たわけではない。もし、私だけの独りよがりが進んでいたなら、あの“根っこ”がダメになったトマトのように、決して実をつけることは出来なかつたらう。そこには、単組、支部の盟友1人1人がいてくれて、協力してくれたからこそ、根を張り、成長することが出来た。

「根っこが、大事なんだぞ！」

あの時の先生は、深い意味など考えないで言った言葉かも知れない……。しかし、今の私が、営農・生活している中で、こんなに合う言葉は見つからない！時にこの言葉は、野菜だけではなく私の飼っている繁殖牛にも当てはまる。子牛の時に、どんな飼養をしたかで、肉になった時の良し悪しが決まる。大事なのはやはり、“最初の“根っこ”をどう伸ばしてやるか！”であると思う。

我が青年部も、そうではないだろうか？

一見、華やかな活動を行っている所でも、支部の一人一人の盟友が知恵を出し合い、力を合わせた上に青年部が成り立っている。その一人一人のやる気が無かったり、他力本願では、決して花が咲き、実をつけることは出来ない。

青年部が輝けるのは、志を共にした皆さんがいるからです。

そして、私には、恋人・家族・仲間。命に代えてまで守りたい大切なものがたくさんある。私は、それらを、今までやってきた、このすばらしい農業という職業で守りたい。その為には、まだまだ私は、人としても、農家としても、青年部の一盟友としても、成長途中。だからこそ、人とのつながりと言う“根っこ”を今以上にのばし、この地にしっかりと根を張って歩んでいきたい。

そう いつか花を咲かせ 大きな実をつける その日まで！